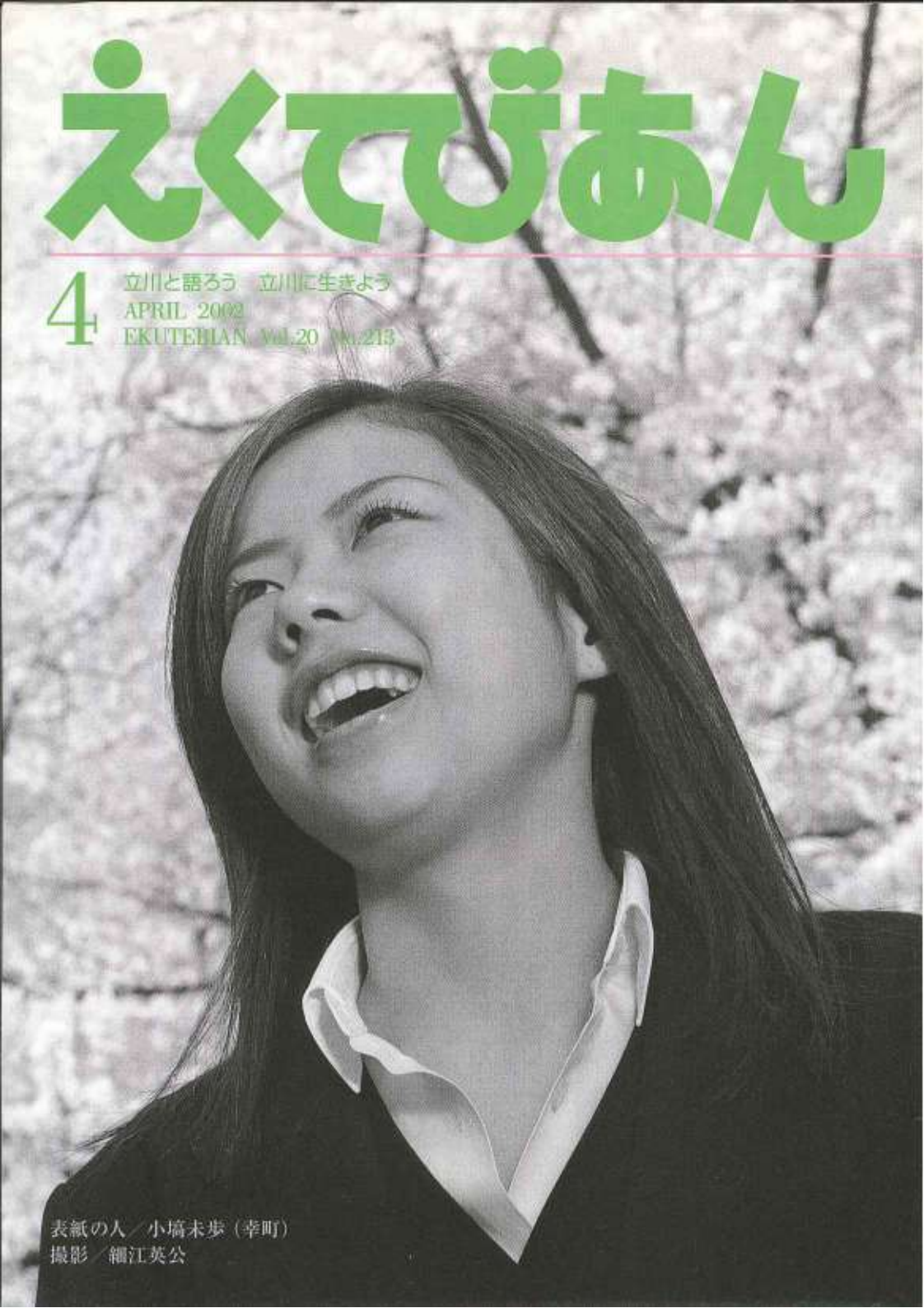
えくてびあん

4
立川と語ろう　立川に生きよう
APRIL 2002
EKUTEBIAN Vol.20 No.213



表紙の人／小塙未歩（幸町）
撮影／細江英公

砂川深層 3

案内人・豊泉喜一
写真・五来孝平

砂川の富士山

砂川三番に「金比羅山」という名のまるで古墳のような人工の小山がある。現在、この山には金比羅大権現と中腹に秋葉神社が祀られている。

この山の築造については、玉川上水開削時の残土説、明治初期の名主であった砂川家の裏に水田を造成したときの余り土説、玉川上水の通船事業にあたって水運の神様である金比羅様を祀った等々、諸説が伝えられている。しかし何れも確たる根拠に乏しく、その成り立ちは謎であった。

ところが昨年、この山にほど近い旧家から『富士山築立信心連名帳』なる古文書が発見された。それを読み進めるうち、この山はどうやら江戸時代に盛んであった富士講の信者たちが信仰の象徴として築造した「富士塚」ではないかという新たな説が浮上してきた。

今からおよそ百四十年前の文久三年（一八六三）、正月十三日より十日ほどの間に、近郷近在から大勢の信者たちが砂川の地に集まった。古文書には砂川村の人たちばかりでなく、遠くは八王子、所沢、日野をはじめ周辺の村々から集まった、女性を含めおおよそ千二百人ほどの信者の名前が記載されている。

古文書の中に「富士塚」を築いた経緯や場所、費用などの記述は見当たらない。だが、その内容はどうやら未だ成り立ちが謎とされる「金比羅山」のことを指し示しているのではないか思われるのである。

今ではこの山を「富士塚」と云う人はなく、そのような云い伝えもない。「金比羅山」という名称だけが定着してしまったのは何故なのだろうか。まだまだ謎の多い山である。

頂上に祀られている
金比羅大権現のお社

金比羅山（富士塚）の登山口

「連名帳」の中には、
女性の名前もみられる

昨年、新たに発見された
『富士山築立信心連名帳』

人間は木の「ぬくもり」から離れられない

木の語り部 伊藤 博さん

■伊藤　博（いとうひろし）／昭和8年、立川生まれ。柴町に育った。小学校6年生の時に、奥多摩・沢井へ疎開する。この時、自然との交歓を深める機会を得る。高校は林業科へ進学。大学は経済学を専攻して、3年間「社会科」の教鞭をとる。以降、家業の材木店を継ぎ、その間「木」についての知識と蓄積を深め、多くの人に木についての認識を深めてもらいたいところから、「木の語り部」を名乗り、本業ともどもに精力的活動を続けている。
■立井啓介（たていけいすけ）／本誌編集人。

啓介　近ごろ、環境破壊だとか自然保護といった言葉がしきりに云われてますがおおむね都会のインテリが口先だけで叫んでいるようで「実体」がない。

伊藤　そういう傾向は、確かにありますね。

啓介　去年の夏に、高尾山の植樹があるというので、わが「えくてびあん」も参加させていただいたのですが、汗はびっしょりかいたし、いい山の空気を吸って爽快な気分ではありました。なによりも「自分たちは自然にやさしい人間なんだ」という気持ちが働いているわけです。幾日か経ってみるとココが危ないな、と思いはじめる。大自然に対して、ほんのひと握りの植樹をして、自然は喜ばないことはないでしょうが、あるいは、多少喜んでくれるかも知れないけれど、「自分たちはいいことをしている」というオゴリの方が危ないです。

伊藤　一見、正論だという発言は世の中にたくさんありますね。他にたくさんの要素があるのに、一点をついて、そこだけを取りあげると「一見、正論」がまかり通ってしまう。

啓介　日本人はもともと木造建築に住んでいたんだし、生活の中でも、とても木を大切にしてきた民族だと思うんですが。

伊藤　それが、いつの間にかコンクリートに様変わりしている。建築の方でいえばコンクリート造りはなかなか効率がいいんですね。まず、木材のようにめらめらと燃えてしまうことがないでしょ。ですから消防基準が通りやすいんです。その端的な例が、学校ですね。小学校も中学高校も軒並みコンクリートになってしまいましたね。

啓介　そういえば、去年の春に母校の高校を訪れた時にびっくりしました。私が通っていた頃はもちろん木造で、廊下がきしむような二階建てでしたが、眼前の母校は鉄筋で四階建て。よそよそしくてとても校門から中へ入ってみる気にならなかったです。

伊藤　日本人なら誰でもが持つ感触なのでしょうか、最近は木造校舎が復活しはじめているのです。全部木造というわけにはいかなくても、内装に木を使いはじめているんですね。木を使うのと使わないのじゃ、居住性が全くちがう。

啓介　やっぱりねえ。木造のプラス面といったら、どんな点があげられますか。

伊藤　まず、温度調節がありますね。熱の伝導率が低いんです。例えばガラスに手を当てますと、ひんやりします。あれはガラスの伝導率が高いからです。それから、音の問題があります。音の吸収率がいいですから。

啓介　それでも、「鉄筋コンクリート四階建」なんていうと、どこか「近代的」に聞こえてカッコいい。

伊藤　こういう研究が発表になってるんです。コンクリートにしてから調査してみると、子供たちの疎外感が強くなっているというのですね。もしかすると、学校が荒れるというのも、建物と関係しているのかも知れません。全部ではないにしても、その一端を担っていると。

啓介　それにしても、人間って贅沢な生き物ですね。木造の時代は近代的なコンクリートにあこがれて、それが普及してみると、今度は木のぬくもりが欲しくなる。ところで「ぬくもり」って何でしょうかねえ。

伊藤　木を電子顕微鏡で見てみると、実は穴だらけなんです。70パーセントくらい。段ボールの断面を思い浮かべてみるといいですね。蜂の巣構造なんです。これが「強く」て「あたたかい」源です。それに光を吸収して、目にやわらかい面も見落とせませんね。ある大学の教授が調査したところでは、近眼になっている学生に違いが出ているということです。これは単に「気分」の問題だけではないということでしょうね。顕著なのは湿度の調整、これはポイントです。人間にとってベストなのは50～60パーセントなのですが、内装に木を使うことでかなりカバーできるんです。

啓介　近代人はわざわざ調節しづらい建材を使っておいて、加湿器や除湿器を買ってくるんですから、考えてみればおかしな行為ですね。

伊藤　それに加湿器や除湿器は電気を食うでしょう。

啓介　根底が「自然にやさしく」ない。

伊藤　校倉造りで有名な正倉院ね、奈良東大寺の。あそこにはたくさんの御物が収められているんですが、今では一棟しか残ってないそうですね、完全な校倉造りは。他は内装を檜でカバーしてます。

啓介　国宝級のものまで管理が大変になってきているわけですからねえ、一般の美術品なんかも苦労されてるんでしょうね。一方では「昔はよかった」風なノスタルジーも働くわけですよね、雨戸が面倒くさくなってヨロイドにしたりサッシにして。

伊藤　経済成長の名のもとに、一気にやり過ぎた。行き過ぎた面が多くあると思いますね。仏教の「中庸」の思想というものをもっと大切にしていってもいいんじゃないかと思いますよ。

啓介　仏教で思い出しましたが、柴崎町にあります普済寺。火事で多くを失いましたけど、ほとんど復建されたですね。今の世の中にあれだけの材と人を集めるのは大変だったろうと思いますよ。

伊藤　檀家さんも偉いですね。

啓介　拍手を送りたいです、私のところと宗派がちがいますけど。

伊藤　後世に残るものを造ろうとしたらひと通りの志じゃ出来ませんからね。

啓介　「日本は木の文化」って教わってきたのに、いつの間にか消えそうな気配ですね。

伊藤　そんなことはないと思いますよ。国宝といわれる建築物は一二五箇所あると聞いてますけど、これ、全部が木造ですからね。確かに日本の風土、日本人の生理に合っているんです。木は日本の財産なんだ、という志をもっと高くかかげていかなくてはね。これは私たち自身の問題だし、子供たちに受け継いでもらう必要がある。みんなが右向いている時に一人くらい左向いてる人がいてもいいんですよ。いわゆる、変わり者を大事にする精神も大切なんです。

啓介　それに伊藤さん、日本がイミテーションの時代に入ってきちゃってるでしょ。木が少しもてはやされると、木目の模様をつけた紙を貼りつけたりする。うちの工房の本棚なんかそうですよ。ある時、セロテープをはがしていてバレてしまった。

伊藤　シックハウスの問題なども、その根っこには経済原則が働いているわけで、早く、安く、便利に……。

啓介　その一方では、と云うのか、それだからこそと云ったらいいのか、宮大工に尊敬のまなざしを送る気持ちが強いですね。代表格の西岡常一さんのような。

伊藤　あそこまでいくと、手の届かない高みですから。

啓介　木を語っているようでいて、いつの間にか「人間」を語っているんですね。人生哲学です。図書館へ行くと、読み切れないほどの著書があります。それに、日本人は昔から左甚五郎が好きですね。伝説化されて、どこまでが本統で、どこからが脚色なんだか判らなくなってしまっている。木にも「ぬくもり」がありますが、語り部にも「ぬくもり」があるということでしょうか。甚五郎の話は落語や講談でよく聞きますからねえ。

伊藤　はじめに「一見、正論」の話が出ましたよね。この間、バスに乗ってたら飲み物が出るので紙コップが配られたんです。そこに「自然にやさしい」って書いてあるんですね。どうしてかと云ったら、木を使ってないから。ちゃんとそう印刷されてるんです。一般の人には、木は切ってはならない、という思い込みがあるんですね。我々にすれば「木は切らなければならない」。もちろん、切り方には問題があるんですが。

啓介　割り箸、あれはけしからんという「正論」がありましたね、以前に。

伊藤　「割り箸論争」は一五年くらい前でしたかねえ。端材を生かす。こちらの方が本統は正論なんですがねえ。先程、紙の本棚の話が出ましたが、端材がたくさんあるのに、ハイキングコースなんかに木に見立てた擬木（ぎぼく）を使っているのを奥多摩なんかでよく見かけますが、どういうセンスなんでしょう。

啓介　「擬木センス」といって、「花粉症」みたいに、日本中に蔓延している（笑）。

柴崎町

ウェルネス健康サロン		柴崎町2-2-23-2F 521-0289
甘味処	石や	柴崎町2-3-15 524-0862
KIT'S SHOT BAR		柴崎町2-3-20-2F 522-8718
不動産	コマツホーム	柴崎町2-4-6 525-5811
喫茶	キャリー	柴崎町2-4-7 528-2630
かみゆい処	わ	柴崎町2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店		柴崎町2-4-8 522-3065
お茶・海苔	小室園	柴崎町2-4-8 522-2894
ジョイフルプラザ	アネックス	柴崎町2-4-14-1F 521-1228
ファッションハウス	ホマレヤ	柴崎町2-4-15-1F 525-2788
焼きたてパン	オーロール 立川店	柴崎町2-4-15 527-9473
日向地鶏	鳥幸	柴崎町2-4-18 528-0556
純中国料理	北京大飯店	柴崎町2-4-19 522-6393
和食の店	ななや	柴崎町2-4-22 525-6980
田中星美堂薬局		柴崎町2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔	菊川園	柴崎町2-5-6 526-2035
Cafe	COLORADO	柴崎町2-5-8 526-2285
西欧厨房	グランディール	柴崎町2-5-8-2F 522-0729
マエダ文具店		柴崎町2-6-2 525-6584
Natural Life Shop	ピュアグリーン	柴崎町2-6-2 521-2690

えくてびあんの輪
人があって、街があります。
あなたがあって、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

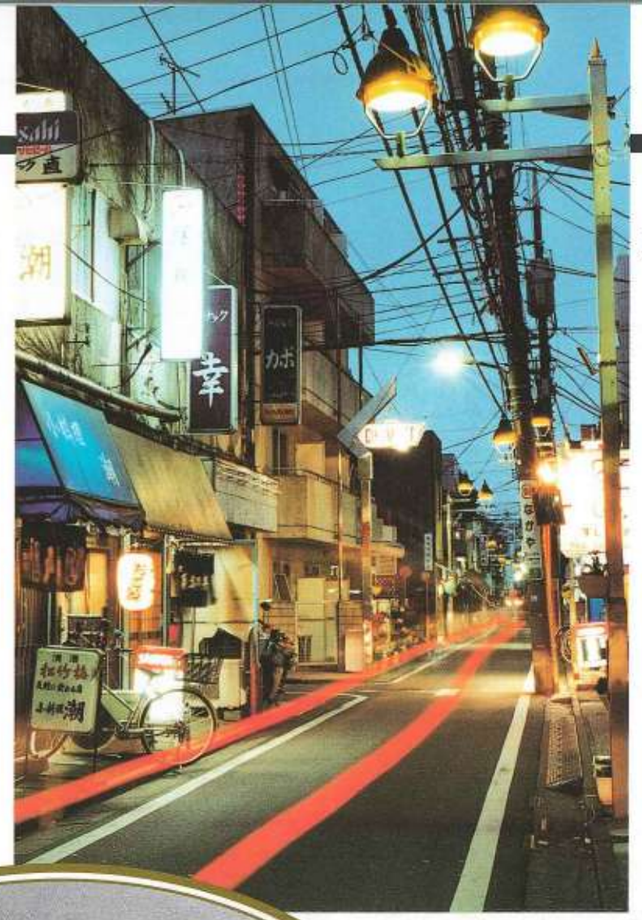
スタジオ269		柴崎町2-8-10 527-0269
写真の	エース	柴崎町2-9-2 523-0851
Fashion	You Me	柴崎町2-9-28 523-1640
石原薬局		柴崎町2-10-3 523-4067
豆腐	やざわ屋本店	柴崎町2-10-14 522-4336
ファンシーグッズストア	Sun Create	柴崎町2-10-16 548-8618
サイクルハウス	輪輪館	柴崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL	クボタ	柴崎町2-12-23 522-1122
いなげや	立川南口店	柴崎町2-12-24 526-2947
いなりずし・のり巻きずし	松月	柴崎町2-17-20 523-4758
カフェテリア	木の葉	柴崎町2-17-23 522-9251
カレーショップ	砂時計	柴崎町2-18-10 525-2414
クリーンデンタルクリニック		柴崎町2-21-12 527-1137
ビューティーサロン	ウィスタリア	柴崎町2-21-15 527-1116
ロッテリア	立川南口店	柴崎町3-1-3 522-3928
とんかつ専門	かつ亀	柴崎町3-5-2 525-7647
紙匠	雅	柴崎町3-5-11 548-1388
サンカメラ		柴崎町3-7-22 522-3336
あさひ銀行	立川支店	柴崎町3-10-1 522-4161
松山堂薬局		柴崎町3-13-25 522-2550

柴崎町

「シネマ通り」を偲んで——

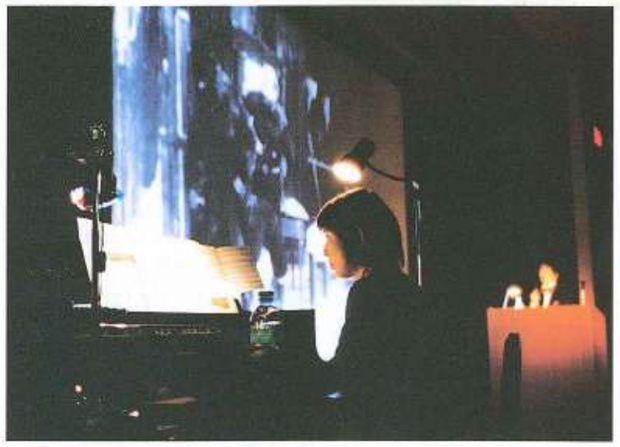
あの懐かしの映画街

かつて、立川は「映画の街」であった。
十指に余る映画館を数え、いつも満員御礼。
そんな時代を懐かしんで『無声映画』の上映会が開かれた
(於・アイムホール／主催・高松公民館)。
今日ではほとんど見られなくなった『街頭紙芝居』の実演と併せた
この催しに多くのファンが駆付けた。
いまだ醒めやらぬ、映画の夢。
高松町に今日でも「シネマ通り」は現存し、かつての栄華を偲ばせるなにかが、ある。



シネマ全盛時代の街並み
そのままの「シネマ通り」

石版で刷られた映画の宣伝広告
(鈴木關郎氏提供)



平成の活動弁士・澤登翠さん
声色を自在に操り、登場人物
の感情を見事に表現していく

活弁の台本
端的に情景を表す台詞が並ぶ

無声映画伴奏者・柳下美恵さん
絶妙の間で映像に彩りを添える

大正14年、立川初の映画館「立川キネマ」が開館

写真／立川市歴史民族資料館提供

立川通りから望む「立川キネマ」
(昭和10年頃)
手前には「芝地」と呼ばれる
空き地が広がっていた

「謎が謎を呼ぶ奇怪な物語……」
街頭紙芝居実演家・秋山呆榮さんの語りは
たちまちのうちに観客を虜にする

老いも若きもぐんぐんと紙芝居の
世界に引き込まれていく

当時、映画は数少ない娯楽と
して街の人々を魅了していた
(昭和30年頃)

ゴロさんの独断毒語 ㉝

日本号

ちょうど桜が散って、日本では花吹雪が舞う頃でした。パリに住みなれて、下宿も決まり十五区界隈の様子にも明るくなってきていました。

下宿のマダムはベルベックおばさん。その娘がジャンヌ。主人がヴィキ。二人の間にはナヌーとココというかわいい子供がいました。よくディナーパーティを催して、友達など呼んでひと晩中、騒いでいるなんてこともしばしばでした。

近くをセーヌ川が流れ、アポリネールでお馴染みのミラボー橋が架かっていて、散歩にはもってこいの場所でした。ある日、外出しようと玄関に近付くと、ココがベルベックおばさんになにか尋ねている。そして、おばさんが私に向かって、――ゴロー、ここの処、解る？

と訊いてくるのです。ココが飛行機の模型をこしらえているところでした。日本のと同じようにヒゴを水に濡らしながら、ローソクの炎にあてて、根気よく曲げて翼を型どってゆく、あの模型飛行機です。

私は外出の用向きも忘れて、段々と模型飛行機づくりに夢中になってきました。ココのこともマダムのことも、多分。

二時間も没頭していたでしょうか、ようやく骨組みが完成、あとは紙を貼るだけです。するとココがいきなり、――翼に字を書こうよ。

と云いだしました。――じゃ、それはココ、お前に任せるよ。

イラスト：綾 幸子

ココは右の翼にデカデカと「APON」と記しました。そして、咄嗟に思いついて私は左の翼にこれもデカデカと、赤い丸を描きました。日の丸のつもりだったのです。

近所の公園へ「初飛行」に出掛けました。ゴムがきっちり巻けるまでプロペラを回して手放すと、バランスよく、ゆるゆると二十メートルほど飛んでプラタナスの木にぶつかってしまいましたが、まずは大成功と云ってよいでしょう。私は思いついて、――エッフェル塔の天辺から飛ばしてみないか、ココ。

と提案すると、ココも大賛成。同じ十五区にあるのに、ふたり共まだ登ったことがないのです。一目散にエッフェル塔へ向かいました。

われらが「日本号」は初めこそ勢いよく飛びましたが、すぐにプロペラの力がなくなり、パリの上空を流れる春風に乗って、ゆらりゆらりとブローニュの杜の方へ飛んで消えました。

最近、ココからある用件があって、東京のわが家に電話が掛かってきたのです。少年ココはとっくに大きくなっていて、もうお嫁さんもいます。用件が一段落すると、電話口の向こうからココがぽつりと呟きました。

――それにしても、ゴローとぼくの飛行機、あの「日本号」、どこへ消えたんだろうねえ。

もう、三十年が過ぎていました。少年の夢の大きさに私は吃驚して、目頭が熱くなりました。

（やまだごらう・詩人）

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ
多摩てばこネット
http://www.tamatebako-net.ne.jp/
多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄
真如苑提供番組<じょうらくがじょう>
スカイパーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch
土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送／火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。
立川に育てられて六十六年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

たましん ポイントサービス
たましん ロングパートナー
LONG PARTNER
お取引をまとめるほどにオトクになる、たましんの新サービス。
申込み無料
簡単お申込みでメリットいろいろ！
●ATMの時間外手数料等《手数料の優遇》
●定期預金・各種ローンの《金利優遇》
●年金振込ご契約の方なら《金利優遇 しあわせ定期プラス のご利用OK!》
●年に1回抽選で《ギフトカードプレゼント》
3000円分を100名様にプレゼント。
※定期預金の金利優遇、しあわせ定期プラスのご利用はゴールドステージの方のみとなります。
詳しくは店頭またはホームページで。
http://www.tamashin.jp

デジタルえほん
メモリーブックにどうぞ…
ミッキーやキティちゃんと一緒に…!!
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。
PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING
株式会社 大廣社 ☎042-527-1911
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
FAX.527-1949
E-mail dikosya@nifty.com

表紙の人 小塙未歩さん（幸町）

立川第四中学校二年のときに「全国中学生人権作文コンテスト」に応募して、その作品が東京都大会・最優秀賞に選ばれる。同時に全国大会では奨励賞に輝いた。

作文のタイトルは『いじめる人、いじめられる人』。

小学校四年の時の体験から、いじめる人、いじめられる人、両方の立場を忌憚なく、素直な文体で表現したのが受賞につながった。

「百聞は一見にしかず」だが「百見は一体験にしかず」か。その未歩ちゃんがもう、高校生の春を満喫。

（於・根川／撮影・細江英公）

東風

例年ならば、桜の開花日を待ち望む頃だが、これも地球温暖化の表れなのか、もう散りはじめている。この間まで、あんなに「春」を待っていたのに、もう汗ばむ日がある、嘘のようだ◆高松町にある「シネマ通り」は名のみで、映画館の立ち並ぶ面影もない。ないが、その名に限りない郷愁を感じる立川人は多いようだ。今月「えくてびあんの眼」で取材させていただいた無声映画、紙芝居には、そうしたシネマ通りへの憧いが込められている。1月号の「嗚呼、懐かしのアメリカ車」でも歴史のひと駒にふれているが、「昔のはなし」を単なるノスタルジーととらえてしまうのは、あまりに短絡的にすぎないだろうか。紙面の小さい本誌では、多くを語れないが読者の心中において、広がりをもたせてくだされば、編集子の悦びとするところである◆木の話をすると、一見「昔ばなし」になりやすいが、伊藤博さんの話は、実は「未来」に向けているのであって、決してノスタルジーが本意ではない。だが、木は日本人とともに生きてきたので、どうしても歴史のひと駒にふれなければならない場合がある。それだけ、私たちと木との関わりあいは深いものがあるということだろうか◆えくてびあん 見をさめ桜 去年のごと

【第三次えくてびあん同人】
編 集 大久保清志 / 小林康史 / 杉山清純 / 芳賀敏博 / 山田五郎
デザイン 池田隆男 / AMNET DF
写 真 加藤正嘉 / 五来孝平

えくてびあん© 4月号
第20巻 通巻213号
平成14年4月1日発行
発 行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065
編集人 立井啓介
発行人 瀬尾勲三
印 刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

Topics トピックス

9人・3団体が表彰された コミュニティ奨励賞

去る3月9日、アミューたちかわ小ホールにて（財）立川市地域文化振興財団の主催する第14回コミュニティ奨励賞表彰式が行われた。この賞は、市民のコミュニティ意識の高揚と活動促進のため同財団が設けている制度の一環で、文化・スポーツ、善行、地域活動の分野において自主的かつ積極的な活動をされている個人や団体を毎年表彰している。選考の対象となるのは、たちかわ市民が推薦する人で、同財団所定の推薦状に必要事項を記入、その内容を証明する資料を添えて提出する。今回は9人・3団体が表彰され、代表でスポーツ活動奨励賞を受賞した新体操の浅沼圭さん（栄町・中学校2年）が挨拶をした。また、文化・芸術活動奨励賞に輝いた立川市奇術愛好会によるマジックショーと立川市児童合唱団の可愛い歌声が式に華をそえた。

すずらん通り（錦町）にて 春のすぐらんフェスティバル

3月15日、JRAウィンズにおいて立川南口すぐらん通り商店街が主催する「すぐらんフェスティバル」が行われた。春に行われるのは今年で2回目となる。今回は、地域の有志の人たちがフラメンコとインド舞踊を披露。会場内にカンタオール（フラメンコの唄い手）の唄声が朗々と響き、ギタリストのつま弾く音色の中、ドレスに身を包んだ5人の踊り手が舞い踊る。自然と観客席より演奏に合わせて拍手が興り、会場全体に一体感が生まれていった。また、インド舞踊の煌びやかな衣装としなやかな動きが観る者を魅了し、会場は熱気に包まれた。集まった人たちには商店街が用意したすずらんの鉢植え500株とオリジナルエコバック200個が配られていた。

真味百撰 ⑥⓪

OBANZAI-YA 茄子菜（なすな）

●高松町3-14-2 ●521-2918 ●日曜日定休
●営業時間 11:30～13:30（ランチ：一汁三菜の定食）
17:30～24:00（祝日 17:00～23:00）
●カウンター11席、テーブル16席、奥座敷23席
●Pなし

昼は一汁三菜、夜は創作料理
女性ひとりでも立ち寄れる店

店主の宮沢いずみさんは長年勤めてきたアパレル業界を辞め2000年3月、実家にほど近い場所に店を開いた。吉祥寺には姉妹店「豆菜」があり、いずみさんの実姉・鵜野桂子さんが両店舗のオーナーを務めている。この姉妹の結束は固い。

滑り出しは順調にみえた。だが開店後まもなく近隣でおきた火災で店は大量の水を被ってしまう。オープンしたての事とて動揺もしたろう。しかし姉・桂子さんは少しも臆することがなかった。そして姉妹は当然のように店を再興させる。いずみさんはそんな姉を「尊敬できる存在」と云い切る。

この店の調理スタッフは、みな若く覇気に溢れている。それには一寸した理由がある。いずみさんは個々のスタッフに対し、月に2度、1時間ほどの個人面談を続けているのだ。この時、腹を割って何でもとことん話す。これが、店が目指すフレンドリーな接客に活きているようだ。このいずみさんのさばけた性格、姉御肌ゆえ、なんと女性客のファンも多いのだとか。

メニューは2ヶ月ごとに7割ほどが入れ替わる。スタッフとともに日々成長を続ける店。それが茄子菜だ。

うなぎ厚焼玉子（写真手前）680円
豚の角煮の中華パン付（写真奥）750円
熱々レアポテトとバニラアイス 450円

いつも、旅

型染版画家・田中 清の世界 ⑨

故郷である但馬で、こんなことがありました。鴉が何百羽となく天空でギャアギャア鳴いているのです。トンビもいます。壮絶な喧嘩だったのですね。正直、怖かったです、天の怒りとでも云いましょうか。私は暫くまだ経験したことのない神秘と緊張の中に佇んでおりました。天地が逆さまになったようで、主体と客体ひっくり返る瞬間、人間の小ささを痛感した時でもありました。

『鳥の舞う山』

多摩の新景より
『光厳寺の山桜』
（五日市町）